

島根大学大学院教育学研究科「現職短期1年コース」

「課題研究成果論集第3巻」の発刊に寄せて

教育学研究科長 伊藤 豊彦

本論集は、島根大学大学院教育学研究科「現職短期1年コース」の平成23年度修了生7名による課題研究の成果をまとめたものです。

「現職短期1年コース」は、平成20年度の島根大学大学院教育学研究科の改組を機に新設されました。このコースの設置の趣旨は、アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）にある通り、「現職教員で、自らの教員としての資質向上・専門性の高度化等に強い意欲を持ち、特定の分野について1年にわたる長期の研修機会を得たいと考える人」、並びに、「任命権者等が、高度な専門性を身につけることによって将来優れたスクールリーダーとして成長することを強く期待する人」を受け入れることにあり、現職の学校教員の先生方に、今まで以上に凝縮かつ充実した教職大学院に匹敵する研修機会を提供しようとする目的で設置したものです。

また、本コースでは、それぞれの興味・関心に応じたオーダーメイド型のカリキュラムを提供することを目的に、夜間や長期休業期間中にも講義を開講したり、修士論文に代わる「特別課題研究」を課したりというように、通常の2年課程とは異なる単位の修得方法で研究指導（「課題研究」）を行うという、他の教育学研究科とは異なる新たな試みにも取り組んできました。

さて、本研究科がこのような新たな現職教員研修のあり方を模索する試みの中でまとめられた修了生による本論集は、現職の先生方が、指導教員との協働の中で取り組まれたまさに貴重な“成果”であり、今年度で第3巻を送り出すことができたことを大変うれしく思っています。

お一人おひとりの先生方の日々の実践を改善したいという熱き思いに溢れた研究成果は、それに至る過程の中で、指導教員やストレートマスターを巻き込み、研究科全体のレベルアップに確実に貢献いただきました。7名の先生方と指導に当たっていただいた先生方に改めてお礼を申し上げたいと思います。

また、執筆された7名の先生方にとっても、この課題研究の成果が今後の教育活動のよすがとなり、地域のリーダー的教員としてますます活躍されますことを心から願っています。さらに、この成果を背景に博士号取得という新たな目標に挑戦していただく先生が現れることを期待しています。

最後になりましたが、研修の機会を提供していただきました鳥取、島根の両県教育委員会、各市町村の教育委員会、並びに学校関係者の皆様にご心からお礼を申し上げますとともに、多くの関係者の皆様にご高評を賜りますようお願いいたします。